

コミュニティ・スクールは地域とともにある学校をつくる取り組みです！

コミュニティ・スクールだより

群馬県立館林特別支援学校・館林高等特別支援学校

令和8年1月発行

保護者・地域向けCSを知る会（令和7年度第3回 学校運営協議会）を開催しました！

11月19日（水）館林特別支援学校・館林高等特別支援学校コミュニティ・スクール（CS）を知る会を第3回学校運営協議会を兼ねて開催しました。地域の方々、保護者の方々の多くの参加をいただきました。両校の子どもたちと一緒に支え育てていくために大事なことやできそうなことを語り合い、未来を描く第一歩になったと思います。今回の熟議の中で見つけた種を保護者の皆様、地域の皆様とともに育てていきたいと思います。

当日の流れ

- ①CSについての説明（学校長、県教委）、地域学校協働活動の説明（各教頭）
- ②講演会「地域で豊かに生きる子どもを育てるために～あおば支援学校の経験から～」文部科学省CSマイスター横澤孝泰氏
- ③3つのテーマで熟議（熟議の結果は裏面に記載）

地域学校協働活動を紹介します



三野谷公民館祭り 11月1日（土）2（日）
両校から、子どもたちの絵や作品も展示して地域の方に見ていただきました。また、中学部の作業製品を抽選会の特別賞に提供しました。



七小遊び交流 11月18日（火）
小学部高学年が第七小学校4年生と交流。4回目の遊び交流で、パラバルーンでのダンスや七小の子どもたちの手製のゲームで遊びました。



宇宙カフェ 12月2日（火）
館林市総合福祉センターにて社会福祉協議会と共同し「演奏とカフェを楽しむ」喫茶サービスを開催しました。



参加型ミュージカル「星の王子さま」 12月9日（火）
児童生徒が感じたままを表現する舞台。サポートボランティア3名が、安全見守りで支援しました。



学習発表会に向け販売学習 12月17日（水）
学習発表会での製品販売を前に、販売学習をしました。サポートボランティア3名に買い物支援の協力をいただきました。

<テーマ>「地域で豊かに生きる子どもを育てるために」

心豊かに生き生きと学ぶために

【目指すべき「自立」と豊かな生活体験】

- 「自立」と「意欲」：子どもたちが将来生きていくために必要なのは、自立心や意欲、そして自分の得意を生かすこと。他者とつながり、地域の中で役割を持つことが重要。
- 体験活動の重要性**：学校の中だけでなく、買い物（コンビニエンスストアなどへの外出など）のような日常的な社会体験こそが、子どもたちの「生き生きとした姿」を引き出す。地域の人の協力や理解を得ながら、外での経験を積むことが学びにつながる。

【保護者の不安への対応と地域連携】

- 相談のハードル**：保護者が「こんなことを聞いていいのか」と遠慮してしまい、気軽に相談できる機会や場が不足している。学校、事業者、保護者がもっとフランクに話せる関係性が求められている。
- 保護者の孤立と情報の壁**：「地元を受け入れスペースがない」「どこに行けばいいかわからない」など保護者の不安がある一方で、ニーズが行政や計画に十分に反映されていない。

社会的・職業的自立に向けて歩み続けるために

【成功体験の創出とオーダーメイドの体験】

- 体験先の開拓**：職場体験の受け入れ先として、既存の枠にとらわれず、子どもの興味（例：漫画を描きたい、トマト栽培など）に合わせた多様な場所を開拓する必要がある。
- 職場体験と自信**：職場体験で「できた!」という成功体験を得ることが、子どもの大きな自信につながる。実習先や就職先について、保護者がもっと知れる機会が必要。自信がもてる体験としては、お手伝いなど身近なことにも目を向ける。感謝される体験が自信につながる。

【多様な「居場所」と情報の「発信・共有」】

- 地域情報の「見える化」**：休日の過ごし方や余暇活動（公民館活動など）の情報が保護者に届いていない。地域側から「こんな場所があるよ」と発信することで、親子が地域に出るきっかけになる。
- 余暇の充実**：学校や家庭以外の「第三の居場所」が重要。ネットだけでなく、リアルで趣味（囲碁など）を通じて人と出会える場が求められている。
- 卒業生とのつながり**：就職した先輩の話聞く機会を設け、将来のイメージを具体的にすることも有効な支援の一つ。

館特・館高特のCSとしての未来像

【地域を「舞台」にした活動の展開】

- 活躍している姿・「自慢」できる活動**：カフェ提供（宇宙カフェ）や、清掃活動、製品の販売を通して、地域の人に「喜ばれる」経験を積む。これが自己肯定感や「自慢」につながる。学校内での発表だけでなく、地域の祭りやイベントに出て行き、住民に向けて発表や販売を行うことで、自然な交流と理解促進を図る。
- 多世代・多機関の連携・交流**：他の学校の同世代の児童生徒との交流により相互理解を深める。また、地域の区長や公民館、ボランティアだけでなく、高校生や大学生など若い世代と関わることで、地域全体で理解が深まり共生社会の実現につなげたい。また、小さい子や介護施設の高齢者と関わることでお兄さん・お姉さんの意識が生まれたり、やさしい気持ちを持てたりする。

【連携・支援の「仕組み」づくり】

- 「ワクワク」する学びの支援**：子どもたちが「ワクワク」する学びの提供と、それに対して支援者、ボランティア等、誰がどう動くかという具体的な役割分担や仕組みを考える。
- 卒業後も学校支援**：卒業生や卒業生の保護者が学校に関わっていく仕組みを作っていく。卒業生には先輩として職場や生活について話してもらおうなど、卒業しても、地域の中の居場所の一つとして、いつでも戻ってこられるような学校としての「仕組み」ができるとうい。また、卒業生の保護者にはボランティアやペアレントメンターとして関わってもらえるようにしたい。